

セルフに関する適切な給油方法について

セルフ式ガソリンスタンドでは火災などにならないよう色々な設備が設けられていますが、適切な取り扱いをすることが必要です。以下の点に注意して静電気・ライターの火などによる出火、燃料の入れ過ぎによる吹きこぼれを防止しましょう。

ガソリンは、常に可燃性の蒸気が発生しています。その可燃性蒸気は、静電気の火花によっても着火し、ライターなど金属品の落下衝撃の火花によっても着火します。また、空気より重いので地上の方向へ移動した後、周囲または低い方向へ広がり、空気中に拡散されます。

セルフでの給油などの注意事項

通常、車両への給油設備、容器への注油設備との2種類があります。それぞれ専用ですので別の位置にあり、車両への給油設備を使用して容器へ注油することは禁止です。同じく、容器への注油設備を使用して車両へ給油することは禁止です。

万一事故が起きたとき、不明な点があるときは、給油設備のインターホンで従業者を呼ぶ。

従業者の放送があったときは、その指示に従う。

喫煙、ライターなどの火を使わない。

子供に給油をさせない。給油中は、子供など、他の人を近づけさせない。

ガソリンを容器に注油することは禁止されています。従業者のみが注油することが可能です。ガソリンを容器で使用する場合は、10リットル以下の容器であっても可能な限り金属製のもので、しっかりフタが閉まるものを使用しましょう。ガソリンが漏れると爆発・火災になる場合があります。灯油を容器で使用する場合は、「推奨・認定」のマーク入りのものが安心です。

セルフでの給油などの手順

1 停車位置・エンジン停止など

(1) 給油設備本体に「セルフ」と表示してある所で、車両の給油口がある側を設備側にして地上の四角な線の中に入るように停車させる。

(2) エンジンを停止する。窓・サンルーフ・ドアはすべて閉じる。給油口のカバーの開放レバーを引く。

2 油の種類の確認・購入ボタン

油の種類を間違えないように確認し、購入ボタンを押す。

3 静電気除去シート

給油をする人は、給油口のキャップを開ける直前に、静電気除去シートに、素手で手を合わせる。静電気除去シートは、給油設備本体に手のひらの形で表示しているものです。人体に帯電している静電気を放電するためですので、その後から給油口のキャップを閉めるまでは、子供など、他の人に触れないでください。

4 給油口のキャップの開

給油口のキャップを開け、給油設備の定位置に置く。

5 給油

(1) 再度、油の種類を間違えないように確認し、給油ノズルを選ぶ。

(2) 給油ノズルを止まるところまで確実に差し込む。原付、バイクは、ノズル位置を調整する。

(3) 給油ノズルのレバーを止まるところまで確実に引く。原付、バイクは、最後をレバー調整する。

(4) 自動的に給油が止まったら、それ以上の給油はしない。

(5) 給油後は、給油ノズルを確実に元の位置に戻す。

6 給油口のキャップの閉

給油口のキャップを閉める。チェーン付きでないものは、忘れないようにしてください。